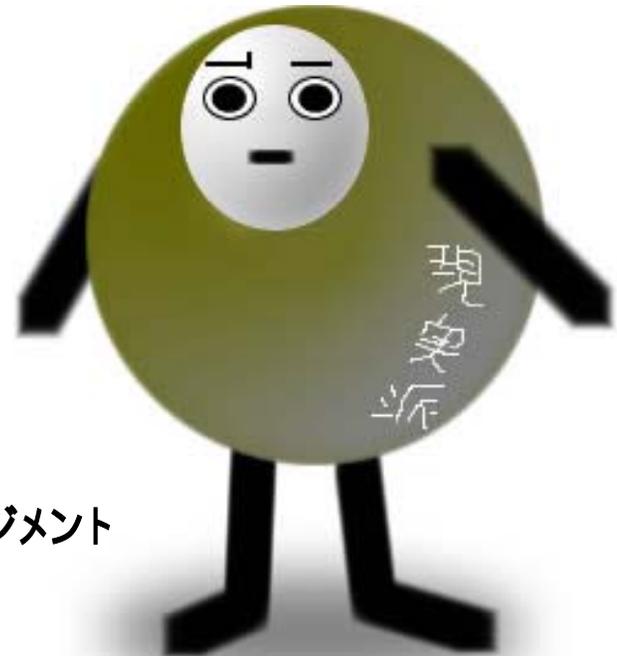


ObjectClub is coming to town



オブジェクト指向実践者の集い

～ オブジェクト倶楽部が街にやってきた～



2003年12月16日
株式会社永和システムマネジメント
平鍋健児



オブジェクト指向の理想

- オブジェクト指向は素晴らしい。これを実践すると、
 - 再利用性が上がります。
 - 生産性が上がります。
 - 品質が上がります。
 - これからはUMLで、MDAです。
ですから導入しましょう (^_^)/



現実見てる？

ほとんど嘘。

- 上がるではなく、上げることができる。
- 「オブジェクト指向」「だけ」では無理。

POINT: 理想だけでは現場はなりたちません



オブジェクト指向の現実



- オブジェクト指向はいいかもしれない。でも、これを実践すると、
 - 実行時のパフォーマンスが落ちます。
 - 進捗がよく見えません。
 - バグの追求に手間取ります。
 - 生産性が落ちます。
 - 教育ができません。ですから導入できません(;_;)



哀しすぎない？

ほとんど誤解。
・「オブジェクト指向」が原因ではない。

POINT: 現実はさびしすぎます。どうしたら、このギャップを埋められるでしょうか？



オブジェクト指向技術成熟度

70年代 80年代 90年代 2000年代 →

UML, Java, Internet



構造化

オブジェクト指向
プログラミング
(設計・分析??)

オブジェクト指向
設計・分析
(プロセス??)

オブジェクト指向
プロセス
(アジャイル?)



構造化+

オブジェクト指向
プログラミング??
設計・分析??
プロセス??

+ XML, Web

- Javaのブレイク, Webのブレイク
 - Java でプログラム == オブジェクト指向?
- UMLのブレイク
 - UMLで設計 == オブジェクト指向設計ができる?
- 多くの基礎技術と早いビジネス速度で, 業界が翻弄されている.



POINT: 日本で'95年以降の急激なオブジェクト指向流入 現場の消化不良



ギャップを埋めるにはどうしたらよい？

- まず、必要な理論(知識)を整理しましょう。
- それを、現実的に実施するには、知恵が必要です。

- 知識 = 理論で教えられるもの(抽象化できるもの)

- 知恵 = (知識 + 体験) × 繰り返し



- 状況性(状況に埋めこまれた学習、徒弟制度)
- 身体性(暗黙知 身体知)
- 感動(『なるほど!』感、モチベーションの泉)

- そして、一緒にできる仲間が必要です。

POINT: 知識だけは役に立たないことが多い(理想派からの脱却 知恵の獲得)



実践的オブジェクト**思考**の知識レイヤ

ファシリテーション

プロセス

パターン

原則

プログラミング要素

協調型意思決定, リーダーシップ
チームビルディング

XP, RUP...
TDD, ペアプロ, リファクタリング...

Design Patterns, Analysis Patterns
Architecture Patterns, Process Patterns

OCP, SRP, LSP, ...

Java, C++, C#, 継承, カプセル化

これは本で学べる知識

POINT: オブジェクト指向を「実践」するためには、幅広い知識が必要。



実践的オブジェクト**思考**の体験レイヤ

ファシリテーション

プロセス

パターン

原則

プログラミング要素

オブジェクト指向再入門 金澤さん

技術者コミュニケーションWS
(本間さん)

アンチプラクティスWS
(倉貫さん)

テストパターンWS
(小井土さん)

体験TDD
(北野)

オブジェクト脳の作り方
(牛尾さん)

コミュニティ(参加する皆さん)

POINT: 本日は知恵を持ち帰ってください。コミュニティこそが重要です。



金澤典子さん

- 大阪大学大学院理学研究科前期課程修了。富士ゼロックス情報システム(株) , (有)インアルカディアを経て、現在フリー。オブジェクト指向技術に関するコンサルティングに従事している。東京工科大学/大学院の演習講師。IPSJソフトウェア工学研究会パターンワーキンググループメンバ。著作『オブジェクト指向再入門』(ソフト・リサーチ・センター) , Interface誌「仕様書の読み方と書き方」(共著)など。訳著『ソフトウェアアーキテクチャ』(近代科学社) , 『マルチパラダイムデザイン』(共訳) , 『C++ FAQ』(以上、ピアソン・エデュケーション)など。趣味は日本古典文学の耽読 , 仏像鑑賞 , お料理 , 掃除機におそうじさせること etc..... そして , Kクン(?)をからかうことv(^ ^)

POINT: 私の師であり、姉であり、 です。



牛尾剛さん

- 日本電気株式会社所属。
関西で製造業・流通業のお客様に対するソリューションを担当しているシステムエンジニア。入社当初から一貫してWebアプリケーション開発に携わる。藤野・金澤氏のゴールデンコンビの教育でオブジェクト指向に目覚める。「Javaなのになんでオブジェクト指向でないんだろう」という素朴な疑問が自らの活動の活力になっている。著作に「eXtremeProgramming実践レポート」(共著)「オブジェクト脳をつくり方」ともに翔泳社がある。

POINT: 今、最も美しく危険な「アジャイラー」です。(エイリアスAlistairFowlerMc剛)



本間直人さん

- NPO法人国際ファシリテーション協会理事。
NPO法人学習学協会主席研究員。防衛大学校 応用物理学専攻卒業後、防衛庁技術研究本部入庁(研究職I種技官)、在職中に九州工業大学大学院博士課程に進学、人工知能等について研究、平成7年同庁退職、平成12年に合資会社ホンマ・ドットコムを開業し、コンサルタント・講演活動を開始。現在は、「創造性開発」など、企業管理職研修でも全国を巡る。共著書に、「コーチングに強くなる本・応用編”(PHP文庫)。

POINT: ファシリテータとして啓蒙活動をつづけておられる実践派です。



倉貫義人さん

- TIS株式会社所属。
学生時代にオブジェクト指向に出会い、その考え方に衝撃を受け学び始める。そして、その実践の場を求め、フリーソフトCardWirthを開発し公開するに至った。TIS入社後は、金融系の大規模システムの開発に、CORBAを採用したフレームワークの設計開発担当として従事。その後、XPで著名な平鍋氏に出会い、その影響を多大に受け、オブジェクト指向とXPを採用した複数のプロジェクトで、設計やプロジェクト管理に従事している。ソフトウェア開発における理論と実践の狭間を埋めることを、自身のエンジニアとしての使命と考えている。

POINT: 金澤さん(と私)がいじめている弟です。



小井士亨さん

- XPJUG (www.xpjug.org)では企画を担当、ビジネスオブジェクト推進協議会 (www.cbop.gr.jp)では.NET分科会の主査、パターンワーキンググループ・実践タスク参加。家族は、妻(知子)と娘(彩)と息子(祥)の4人。共著に翔泳社「eXtreme Programmingテスト技法 xUnitでは始める実践XPプログラミング」技術評論社「UML 500の技 すみからすみまでオブジェクト指向」

POINT: 私のお兄さん。実は.NET大好き派です。



北野弘治

- 株式会社永和システムマネジメント所属。幼き時からコンピュータと共に育ち、『世界一速いCPUを作るんだー』という夢を持って大学時代はハード系の畑を耕していた。社会人になる時にオブジェクト指向に魅せられて『やっぱりソフトだよな』とソフト屋に転向。永和システムマネジメント入社後は、金融情報系システムやオープンソースを利用した基盤系システムの設計開発に従事。現在はITコンサルティングを主としている。

POINT: ビッグな、体育会系スポーツおたくです。(やはりテストはスポーツ?)



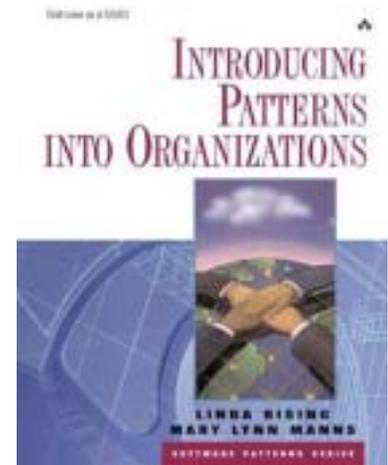
現実世界への持ちかえり方のヒント

- “Introducing Patterns(or any new ideas) Into Organizations”

- Linda Rising

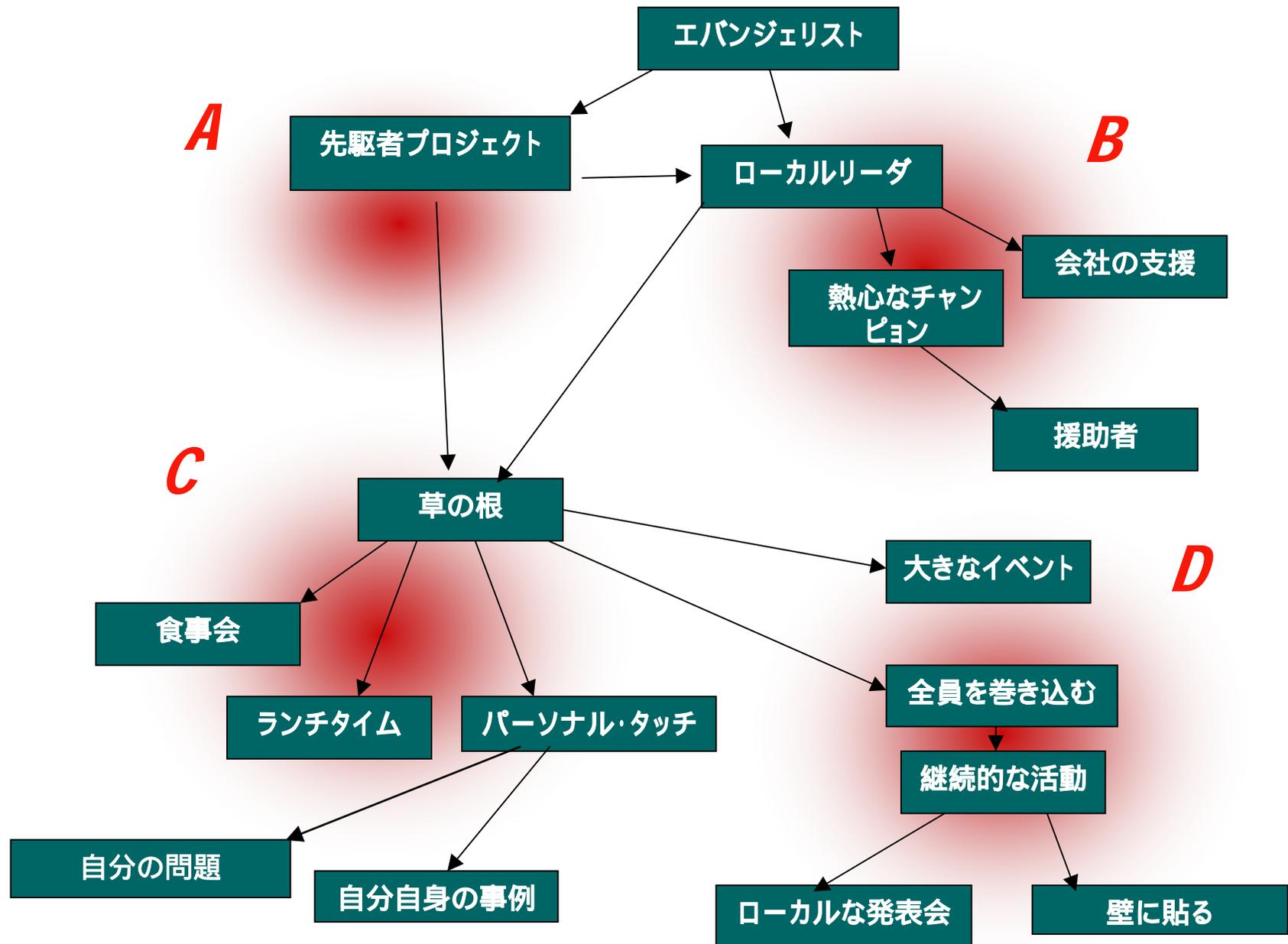
『組織にパターン(新しい考え方)を導入するパターン』

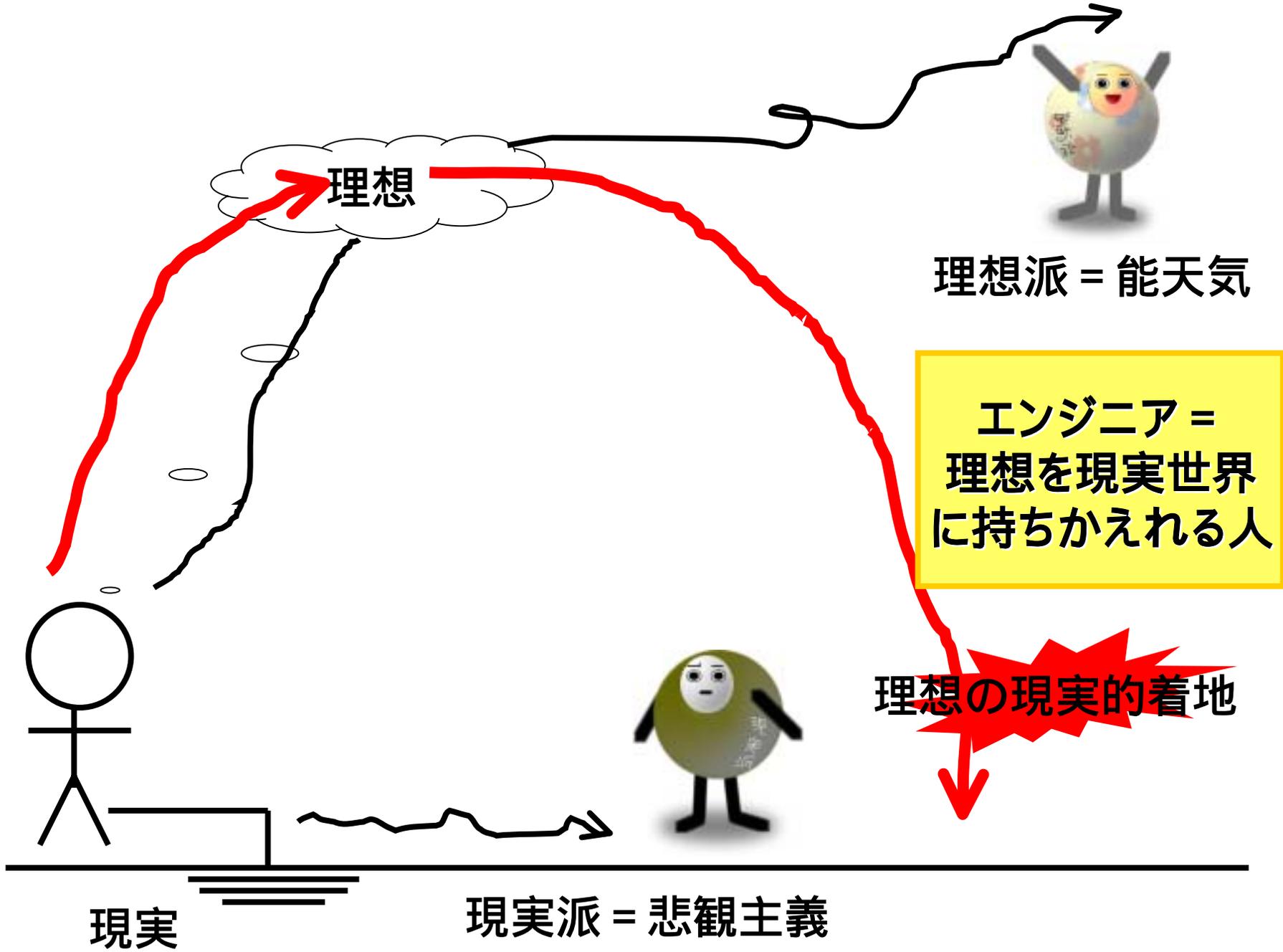
- ほとんどの人は新しいものを恐れる。
- 先端には多くの新しいものがあふれていて、ついて行けない
- 新しいものを評価する信頼できる方法を持っていない。
- みんな、忙しい！
- 組織によってはリソースがない。
- 他の人に新しいものを説得するには時間がかかる。
- 組織は変化にオープンにもクローズにもなりえる。
- 信頼される人々は他の人たちを信頼するでしょう。
- 新しい考えに報酬を与えられる人々は革新するでしょう。
- 組織的な変化はトップダウンでも、ボトムアップでもなく、参加がすべての同じレベルである、共通の理解を通して一列になる。



POINT: どのように自分の味方をつくるか、会社を変えるか、楽しく仕事をするかのヒント。

組織にパターン(新しい考え方)を導入するパターン







先人の言葉

- “科学者は、実在する世界を探求する。エンジニアは、存在していない世界を作り出す。”
- Theodore von Karman
- “知恵を得るためには自分で体験する以外に良い方法はない。”
- Albert Einstein
- “学習者の『なるほど！(Aha!)』を奪ってはいけない。”
- Seymour Papert
- “地図は現地ではない。
地図は現地のすべてを表すわけではない。
地図についての地図を作ることができる。”
- Alfred Korzybski

POINT: 現実、体験、感動、学習、そして愛



サンタクロースは本当にいるの？



- 「サンタクロースなんていないよ」って友達がいうけれど、本当にいないんですか？
- アメリカ ヴァージニア 8歳

- Virginia, your little friends are wrong... 「ヴァージニア、サンタクロースはいます。いないなんて言っている友達が間違っています。もし疑うなら探偵にニューヨークの全ての煙突を見張らしたらいいでしょう。でももしそれで見つからなかったとしても、それがサンタクロースがいない証拠にはならないはずです。愛や信頼や正義がない世界がどんなに悲しいものか、あなたにもわかるはずです。そしてこの世に愛や信頼や正義があるかぎり、サンタクロースは存在し、そして子供たちに夢を与え続けるでしょう。」

1897 ニューヨーク サン新聞社説 フランシス・P・チャーチ

POINT: この世に愛や信頼や正義があるかぎり、サンタクロースは存在するんだね。